

受験 番号
氏名

一次の文章を読み、後の問に答えよ。

闘病記について、読者はふたつに分かれると思う。最初から眼を背けてしまふ者と熱心に読む者。前者は今のところ、^a重篤な病気など自分に関係ないので、^b敢えて暗い話は読みたくなないと考えるのだろう。かつての私もそうだった。闘病記の中で語られる作者の痛みや苦しみには気の毒にと同情を覚えるが、^b所詮、他人事ひとことでしかなかった。

これに対し、後者は自分や身内に同じ病気を抱え、少しでもよい情報を得たいという気持ちがあるからだろう。^A、人はどのようにして病気になり、どのように死んで行くのかと、つきせぬ疑問に駆り立てられるためかも知れない。生きとし生ける者は、いつか死を迎えるのが宿命である。

作家が闘病記を書くのは、^①作家としての業わざであろうか。私は六十歳を過ぎてから中島梓さんの『ガン病棟のピーターラビット』（ポプラ文庫）と『転移』（朝日文庫）を熱心に読んだ。それから絵本作家の佐野洋子さんのエッセイ集も。残念ながらお二人とも癌で亡くなられた。中島さんは最終的に膀胱癌で、佐野さんは乳癌だった。お二人は最後まで^c毅然としていらして、文章にめそめそしたものは感じられなかった。その^dイサギヨいさぎよさに、ただただ感心していた。作家たるもの、こうあらねばと心底思ったものである。

お二人の作品を読んでいた頃は、まだ自分の病気に気づかなかった。思えばそれは予感でもあったのだろうか。あるいは予兆だったのか。まさかとは思うが。

私は二〇一三年に両方の乳房に乳癌が見つかった。今は治療中であるが、担当の医師は寛解かんかいすることはないと、はっきり言った。すでに骨とリンパ節に転移していて、手術もできない状況だった。ここまで書くと、誰しも^②万事休すばんじしゅうすではないかと考えるだろう。しかし、骨とリンパ節への転移は直接、生命を^eオビヤおびやかすものではないので、すぐに死ぬ訳ではない。私は医師の説明を聞きながら、いつから本人に癌を告知するようになったのだろうと、ぼんやり思っていた。それはどうやら癌放置療法で有名な近藤誠さんの^fジンリョクじんりょくによるものだと、後で知ることになる。

告知された私は、^Bショックだったろうと思われそうだが、私の癌は、原発巣がすぐには特定できず、ただ骨とリンパ節に移転しているようだということが先に来たので、乳癌が確定しても、ああ、そうだったのかと思っただけである。もともと呑気で楽天的な性格なので、泣いたり喚わめいたりすることもなかった。

ふさわしい寿命などありはしないが、私はその時六十三歳で、小説家として十八年も仕事をして来た。私なりに書くべきものは書いたし、^gミレンを残しているテーマもこれと言つてない。二人の息子は三十三歳と二十九歳で、もはや母親が必要な年齢でもないだろう。^C、独りであることができないう夫のことが心配と言えば心配だが、それもどうにかなるだろうと思っていた。

担当医師は、乳癌の治療は大変進歩しているので、さほど心配することはないと言ってくれた。すでに私に合った治療法を検討中でもあると言いつて添えて。私はその時、自分の^hスジヨウすじょうを医師に明かしている。できれば治療をしながら執筆を続けたいという気持ちがあったからだ。

^D、それより先に訪れた整形外科で大変にプライドを傷つけられたせいもある。

乳癌が確定する前に、ⁱ股関節こかつせつの不具合と歩行^jコンナンこんなんを感じていたので、その治療のために整形外科を訪れた。医師の診察の前に看護師から別室で問診を受けた。その時、看護師は、仕事は何をしているかと訊いた。私はどういう訳か自分から作家と名乗ることができない質たちなので、小説を書いていますが、とだけ言った。ああそうですかと相手は応えたが、いざ、医師の診察が始まると、私のカルテの仕事の欄には無職と記されていた。ざっと血の気が引いた。私は看護師の眼からは趣味で小説を書き、作家気分になっている頭のおかしな女に見えたのだろう。^③あれほど恥ちずかしい思いはしたことがない。結果的にはその整形外科から日赤の血液腫瘍内科に回され、様々な検査の後で乳癌とわかったのであるが。

日赤では最初から小説家これでも、^j謙遜けんそんしているつもり（宇江佐真理という者であると告げ、出たばかりの新作を差出して身分証明したのである。

本格的に闘病記を書くつもりはなかったのだが、あるきっかけで、今の私の思いと少し詳しい経過報告をまとめてみたかどうかと勧められ、ついその気になった。人の顔がひとりひとり違うように癌の表情も人それぞれである。それを読書に伝えるのも意義のあることだと考えたのだ。

治療に入って一年が過ぎた。

たった一年前のことなのに、遠い昔のようにも思える。自分は本当に癌なのだろうかと今さらながら思うこともある。普通に家事をしているし、寝込むほど具合が悪いこともない。同じ病気を抱える人のためにも予兆や使用している薬のことなどを、つらつら書いて行くつもりだが、ふと、^④これを読む人は私に何を求めているかが気になった。それは癌に有効な治療法ではなく、心持ちの問題ではないのだろうか。

癌を告知されても慌あわてないこと、騒がないこと、焦あせらないことが肝腎かんじんである。大丈夫、あなたはまだ生きている。すぐには死なない。私は同じ病気に苦しむ人にそう言いたい。

ちなみに私の座右の銘は「^E」である。

（宇江佐真理「私の乳癌リポート」より）

問一 —— 線部 a～j のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

問二 ^A、^B、^C、^D にふさわしいものを次の中から選び、記号で答えよ。

イ さぞ ロ まあ ハ なぜ ニ もしくは ホ いや ヘ それでも

問三 傍線部①に「作家としての業」とあるが、どのような意味か。次の中から選び、記号で答えよ。

イ 作家としての欠点。 ロ 作家らしい仕事ぶり。 ハ 作家としての責任。

ニ 作家らしい矜持。 ホ 作家としての宿命。

問四 傍線部②の「万事休す」の意味として適切なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- イ 仕事を休むしかない。 ロ 他人に任せるしかない。 ハ 施す手段がない。
ニ 自分で努力するしかない。 ホ 時期を待つしかない。

問五 傍線部③の「あれほど恥ずかしい思いはしたことがない」と筆者が感じた理由として、適切なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- イ 自分の作家としての無名ぶりを自覚させられたから。
ロ 自分の作家としての表現力の乏しさを教えられたから。
ハ 自分の作家としての誇りをないがしろにされたから。
ニ 自分の作家らしからぬ容貌に気がつかされたから。
ホ 自分の作家としての洞察力のなさに思い知ったから。

問六 傍線部④の「これ」の指し示すものを、本文中の表現を用いて三文字で答えよ。

- 問七 Eにふさわしいものを次の中から選び、記号で答えよ。
イ 平常心 ロ 向上心 ハ 独立心 ニ 信仰心 ホ 懐疑心

問八 筆者がこのような文章を執筆したのは、どんなことを伝えたかったからか。そのことが記された本文中の一文の、最初の五文字を記せ。

二 次の文章を読み、後の問に答えよ。

わが国の安全保障の在り方を変えようとする動きが日米両国の政界にちらほら見え始めた頃から、気にかかっていることがある。変える変えないに関わらず、国家の安全を「保障」する態勢を整えるのなら、その戦略はどう在るべきかと。

戦略とは「戦」いを「略」すこと、とも読める。ならば、どう戦うかではなく、どう戦わないかを考えねばなるまい。ゆえに、いかにして敵を作らぬかを究めるのが、至高な戦略思考であろう。国家安全保障の戦略ならば、なおさらのことだ。

帰国中に各界の指導者の立場にある方に会う機会があると、必ずこの考えを試してみる。外交にも軍事にも明らかに疎いエコノミストの言うことだから、たいてい「理論上は正解だが、非現実的だね」と、一笑に付されるのが落ちだ。

それがかえって至高な安全保障戦略を夢見る糧になるのだから、たちが悪い。しかし、千代に八千代に末永く平和を保つための戦略に、他の考え方があるとはどうしても思えないのだ。

幸い、そんな私を笑わない友が一人いる。十九世紀初期から永世中立を守ってきた平和国スイスの高官だから、笑わないのは当然で、真剣に議論相手になってくれる。彼は「敵を作らぬ戦略は、すなわち無敵な力をつける戦略だ」と、力説する。味方を増やす外交姿勢と取り違えたら、どこかに必ず敵を作ってしまうから危ないと、警告もする。

スイス人は、自分の国を「小さな山国」と称してはばからない。独仏伊など欧州諸国に陸封された九州ほどの領土に、大阪府を下回る人口が住む国だ。しかし、国民皆兵を基本方針とした精強な軍隊を誇る国で、道路や橋など多くのインフラにさまざまな防衛設備を施し、国全体が要塞とさえ言われる。スイスは「無敵な力」を軍に見るのかと聞いたら、それこそ非現実的だと、大笑いされた。国民は、有事の際には焦土作戦さえ覚悟するが、武力はあらゆる策を使い果たした最後の自衛手段だと、笑った。

スイス国防戦略の無敵な力は、「抑止力」だそうだ。スイスを侵略すれば大損するだけだという状態を、国のあらゆる政策を駆使して包括的に作り上げ、国際社会の変動に対応しつつ維持することで、戦争を未然に防ぐ力をつけるのだ。

国連諸機関をはじめ多くの国際機構を戦前から積極的に誘致してきたのは、この戦略の一環だったのかと驚いた。グローバル金融発祥の地という説もあったと思いついたら、スイスのさまざまな経済政策が、抑止力を軸に回り始めた。

一例を挙げると、近年まで顧客情報を極秘扱いとして、内外税務当局などにも絶対明かさない姿勢を貫いてきたプライベートバンキングの発展も、抑止力を成す駒の一つだろう。それを可能にした背景には、金融部門全体の堅実な成長や、保守的なマクロ政策、高度な国際信用などがあつた。次から次へと思いつく経済政策の全てが、国防戦略の一環だろうと想像できて、目が回りそうになった。

「すごい国だ」と仰天する私に苦笑し、「頑固一徹が国民性のスイス人が、本気になったからだ」と平然と言う友に、また仰天した。たった一度でも国外で武力を使えば、長年苦勞して培ってきた抑止力が元も子もなくなる。だから「命がけて当たり前のことをしてきただけ」だそうだ。ちなみに、スイスが国連平和維持活動(PKO)に積極的に派兵する一方、人道支援のみに徹する姿勢を崩さない訳も、ここにある。

しかし、最も重要な政策は教育だと、彼は言い切った。永続しない平和は平和ではない。抑止力の持続的育成を可能にするのは、常に百年先を見据える国民教育。文系理系双方の学問から幅広くかつ総合的に教養を高め、平和を尊ぶ歴史観を養い、鋭敏な判断力を育み、信念を持って行動するリーダーシップ精神を持つ民であってほしい。その上で、スイス人に生まれて幸せだと心の底から言える国民が、永世中立国家の砦とりでになると熱弁する友の目に、光るものがあつた。

小国にふさわしい武力に頼らぬ戦略と言えば、それまでだろう。しかし、武神武田信玄の戦略「勝利の礎」(「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」)に通じる思考だと、感じ入った。

わが国のふがない安全保障の在り方に、彼岸の信玄公の憂いやいかに……。

(二〇一五年十一月二十二日『毎日新聞』西水美恵子「時代の風」による)

問 次の a～j それぞれについて、筆者の考えと一致しているものは○、一致していないものには×をつけよ。

- a エコノミストの言う安全保障戦略は、理論上は正しくても非現実的であるだけに、たちが悪い。
- b いかにも敵を作らないかという戦略思考は、非現実的だと否定されると、余計に魅力的に思えてくる。
- c 至高の戦略思考といえども、各界の指導的立場の人から笑われてしまうようでは認められない。
- d スイスの外交姿勢には、味方を増やすことが大切だという思想が根底にある。
- e スイスの外交姿勢には、敵を作らないことが大切だという思想が根底にある。
- f スイスという国のすごさは、精強な軍隊と多くの防衛施設とによって抑止力を維持しているところにある。
- g スイスという国のすごさは、有事の際には焦土作戦さえ辞さないという覚悟にこそある。
- h スイスという国のすごさは、武力よりも抑止力を重視した政策をとっているところにある。
- i スイスの高官である友人は、平和のためには教育力が最も大切だという母国の方針に、悔恨の涙をこぼした。
- j 「勝利の礎」を残した武田信玄が今の我が国の安全保障戦略を知ったら、きっと落胆するだろう。